

(様式2-2)

## 令和2年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

### 1 指定校・指定校群 ( 坂出市立白峰中学校 )

### 2 実施の内容

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事の中止や延期が余儀なくされ、本校がこれまで大切にしてきた「居場所づくりや絆づくりによる、どの子にも活躍の場のある楽しい学校」の実践が難しい状況が続いた。行事を行う際にも感染症予防対策を明確に示し、実施方法や内容等の大幅な見直しを行う必要があった。また、生徒は新しい環境に慣れる間もなく臨時休業となり、学校再開時に実施したアンケートでは、様々な悩みや不安を抱えていることも明らかとなった。

以上を踏まえ、生徒の主体性や協働性を促す取組を工夫し、異学年交流による「感動体験と成功体験」を共有させるとともに、多様な人間関係の中で互いに心を通わせながら豊かな心を育むことをめざした。

- 異学年での交流を活かした取組・・・対面式でのよさこいソーラン披露(4月上旬)
- 生徒自ら企画・運営した取組・・・部活動引き継ぎ式(7月中旬)、交流運動会(7月末)

### 3 成果

#### (1) アンケート結果の変遷

分析項目	質問項目	分析結果平均点(4段階1~4点)					
		R2.6月中旬			R2.7月末		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
自尊感情	私には、良いところがあると思う。	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1
	私は、「やればできる」という気持ちで何でも挑戦している。	2.9	2.9	2.7	3.1	3.0	2.9
居場所づくり	私のクラスは、自分のやってみたいことに挑戦できる。	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4
	私のクラスは、いろいろな活動に協力して取り組んでいる。	3.2	3.4	3.1	3.3	3.5	3.6
絆づくり	私は、周りの人から感謝されたことがある。	3.4	3.6	3.5	3.5	3.7	3.6
	私には、自分の気持ちを分かってくれる仲間がいる。	3.5	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7

上記アンケートは、6月中旬と7月末に実施した。1・3年生の自尊感情、居場所・絆づくりの5つの質問で、0.2p以上上昇した。特に、3年生の「私のクラスは、いろいろな活動に協力して取り組んでいる。」の項目については、0.5p上昇となり、交流運動会に向けて学級が一つになり取り組んだ結果と考えられる。また、特筆すべきは、全ての学年、項目において上昇していることである。3年生の頑張る姿は、1・2年生に良い影響を及ぼし、肯定的な回答につながったと考えられる。

#### (2) 自発的・自治的な交流活動における子どもの様子

##### ① 対面式でのよさこいソーラン披露



【3年生から2年生へのよさこい指導と練習風景】



【新入生への披露】

限られた時間の中で、3年生は2年生を熱心に指導し、共に最高のものを披露しようと練習に励んだ。対面式当日、1年生はたくましい先輩の姿を見て、憧れの気持ちと新しい中学校生活への希望を

抱くことができた。2年生は先輩として、3年生は最高学年としての自覚をもち、新学期をスタートさせるよい機会となった。

## ② 部活動引き継ぎ式



【生徒会を中心に計画を練る】



【ビデオメッセージを全校生で視聴】



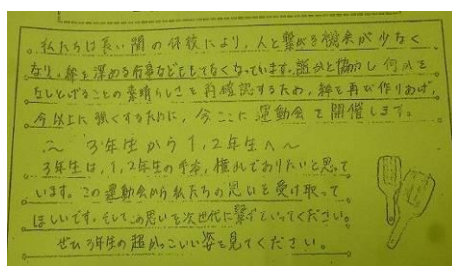
【後輩からのメッセージを見る3年生】

生徒会が中心となり、3年生の総合体育大会代替となる交流大会への気持ちを高めると共に、部活動を後輩へ引き継ぐ節目の機会をつくろうと計画し、実施した。各部活動の3年生がビデオメッセージを制作し、全校生でそのメッセージ動画を視聴した。その後、1・2年生は、3年生への激励と感謝の気持ちを込めてメッセージを書き、3年靴箱付近に掲示した。直接思いを伝えることはできなかったが、それぞれが互いの思いを受け取り、次のステップへ繋いでいく貴重な機会となった。

## ③ 交流運動会



【学級委員会で計画を練る】



【後輩へのメッセージが書かれた  
手作りプログラム】



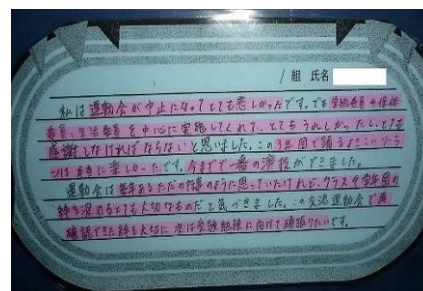
【傘を持ち声援を送る1・2年生】



【先輩へメッセージを贈る】



【運動会後に仲間に贈ったメッセージ】



3年学級委員が中心となり、今年の自分たちにしかできない運動会を実現させたいと企画した。当日の運営についても、各委員会と協力しながら計画的に準備を進めた。また、白峰中の伝統である「白峰ソーラン」を踊る自分たちの姿を後輩に見てもらいたいと、当日は1・2年生が見学をする時間も設けた。運動会后、3年生は企画をしてくれた仲間への感謝の気持ちと、後輩に向けてのメッセージを作成し、互いの心を交流させた。自分たちで企画・運営を進め、実現させた運動会は、昨年までとは一味違う気持ちを味わうことができ、有意義な時間となった。

## (3) 総括

今年度は様々な制限がある中での異学年交流ではあったが、動画撮影や視聴、画像を活用した取組等を工夫して実施することで、自己有用感の高まりと共に、全校生の絆の深まりも実感できた。また、行事の実施を検討し開催する過程において、生徒の主体性や協働性が育まれたことも価値あるものである。今後も、全校生で心を通わせ、学校が一人ひとりにとって心地よい居場所となる取組を工夫したい。